

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第177回

【学生の目】

出身地の秋田県は林業が盛んで、日本三大美林のひとつで知られる秋田杉を用いた木造建築物がたくさんある。正月休みに帰省した際、秋田

杉を用いた建築物として知られるJR秋田駅西口にあるバスターミナルを訪れた。

木造建築物がバスターミナルに用いられる背景として、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」がある。木材の需要を拡大して林業を活性化させ、あわせて山林の手入れが行き届くことを通じ



佐藤 寿哉

不動産学部2年

木造の公共建築物

て、国土の防災を狙うものである。公共建築物を発注する際に木造とするよう指定して木造建築物の普及を促進し、やがて民間の建築物でも採用されるようになることを狙っている。秋田県も独自に「あきた県産材利用推進方針」を打ち出している。秋田杉という県の資産を使った建築物が、県の顔ともいえる秋田駅前にあることは、秋田県人としてうれしいことだ。

感じた。調べたところ、ここは用途地域が商業地域で準防火地域に指定されている。準防火地域では2階建てまでで、延べ面積500㎡までは一般的な木造建築物でも建築可能（建築基準法62条1項）で、写真の建築物はこの範囲内と思われる。また、準防火地域内にある木造建築物は、外壁及び軒裏で延焼のおそれのある部分を防火構造とする規定（同条2項）も、敷地が広いことより、延焼のおそれのある部分には該当しない。

バスターミナルは象徴的

首都圏などの駅前にはRC造やSRC造の高層建物に囲まれて殺伐とした印象だが、秋田駅前の木造のバスターミナルはほのぼのとした空間である。小ぶりながらもシンボル性や展示効果が凝縮されていて、毅然としたものを感じる。加えて、コミュニケーションの場となっている。

しかし、駅前に木造建築物を設けるのは防火上問題がないか不思議に

木造建築物のよいところは、林業の活性化や暖かい空間ができることだけではない。植物は光合成によって二酸化炭素を取り入れて酸素を出す。二酸化炭素排出量の増加による地球温暖化が問題となっているが、木材は排出された二酸化炭素を材の中に閉じ込め、二酸化炭素の貯蔵庫の役割を果たしている（高橋佑介「不動産の不思議第81回」15年4月

28日号）。木材を使うことは地球環境を大切にすることもあり、排気ガスを出すバスターミナルに木造建築物が使われていることに象徴的なものを感じる。

【教員のコメント】
技術が進展して多様な種類と色形の材料が出現し、それを組み合わせる建築も多様となる半面、建築や都市が無秩序となった。木材は構造材、補助構造材、仕上げ材のいずれにも使え、同じ材料で建築全体を造る際に生じる秩序の美学が新鮮だ。



地元の秋田杉を使った建築物があるJR秋田駅西口のバスターミナル